

日本医史学雑誌 第五十二巻 第三号 目次

原著

安土桃山時代における代用人蔘 松岡尚則・山下幸一・村崎徹 三六九
 京都大学整形外科学教室初代教授 松岡道治の事績、業績

——第二報 松岡道治の学術論文 廣谷速人 三六一
 インド伝統医学書『チャラカ・サンヒター』における病理論

——『チャラカ・サンヒター』第二篇第一章第一、十五節訳解 山下勤 三五五
 シンポジウム「個人情報保護と医学史研究」

一、「個人情報保護と医学史研究」のはじめに 岡田靖雄 三五五
 二、個人情報保護法と個人史研究 森田明 三五五

三、個人情報保護と学会誌編集 瀧澤利行 三五三
 資料

池田文書の研究(二十九) 池田文書研究会 三五一
 手塚良斎「医学所御用留」(一〇・完) 深瀬泰旦 三一

記事
 消息
 野口英世の横浜海港検疫所赴任の時期を特定 中村澄夫 三二五

——「ベスト騒動」の前日だった 杉田暉道 三二八

例会記録
 例会抄録
 イエスの治療と釈迦の治療 杉田暉道 三二八

書籍紹介

川寫真人著『水滴は岩をも穿つ』	小
二宮睦雄著『新編 医学史探訪』	荒
池田文書研究会編『東大医学部初代総理池田謙斎池田文書の研究(上)』	林
寺畑喜朔編『絵葉書で辿る日本近代医学史』	井
鈴木厚著『世界を感動させた日本の医師』信念を貫いた愛と勇氣の記録	保
順天堂大学医学史学研究室編	晶
渡部幹夫	男
西卷明彦	志
岩崎鐵志	男
荒井保	男
小林保	男
渡部幹夫	男
西卷明彦	男
岩崎鐵志	男
荒井保	男
小林保	男

《本号の表紙絵》

Marie F. X Bichat 著『膜の研究』の表紙
(英訳本)

Marie F. X Bichat (1771~1802) は、フランス、リヨンで医学を学び、パリのオテル・ディユ病院で、Desault に師事したと言う。『膜の研究』は、その死の2年前に書かれたもので、この場合の膜は、今日の組織に相当するものと言われている。この思想は、後の Johannes Müller、Jacob Henle、Rudolf Albert von Kölliker、Rudolf Virchow などに大きな影響を与えた。X. Bichat は、当時顕微鏡はすでに存在していたが、色収差などの問題で、当時の顕微鏡は問題があり、肉眼的研究と化学分析で、膜の分類を行った。この書物には、図がないことに特徴がある。

本英訳本は、Marie F. X Bichat の死後、11年後にボストンで出版されたもので、本文248ページで構成されている。

(西卷 明彦)